

勝田町政スタート



勝田 康則
 奥出雲町横田出身
 昭和23年10月3日生まれ
 昭和42年しまね信用金庫（当時は雲南信用金庫）入庫、平成14年同庫常務理事、平成18年同庫専務理事を経て平成23年6月同庫退任。
 平成23年7月1日から平成26年9月15日まで奥出雲町副町長。

井上勝博前町長の退職に伴い執行された奥出雲町長選挙で、無投票初当選を果たした勝田康則町長が9月22日、町議会議員や町職員などが出迎える中役場仁多庁舎に到着し、職員から花束を受け取ると力強い足取りで初登庁しました。9月29日、平成26年第3回定例会の開会にあたり、勝田町長が施政方針演説を行いました。（紙面の都合上、抜粋して掲載しています。）

施策展開の基本方針

私は、井上前町長の施策展開の基本的な方向性を継承し、奥出雲町の「まちの将来像・まちづくりの基本的方向」を示した「奥出雲町総合計画」を誠実、着実、堅実に進めていく考えです。そして、『元気、安心、笑顔のまち、奥出雲町とともに生きていく』をスローガンに、三つの重点項目を掲げ、町政運営に取り組みます。

『元気をまちづくり』

人口減少の問題は、奥出雲町だけでなく、全国的に喫緊の課題であり、安倍総理も、先日の内閣改造に際し、地方創生を重要課題として位置付けています。私は、元気に暮らせるまちづくりのため、観光を含めた産業を振興することとで安定した雇用を確保し、定住を推進します。

『安心のまちづくり』

私は、安心して暮らせるまちづくりのため、保健・医療・福祉を充実させ、教育・子育てを支援します。具体的には、高齢者が安心して暮らせるように、現在実施している「生活・交通サポート事業」について、来年度から対

具体的には、新規学卒者を新たに雇用する町内企業、あるいは企業倒産による求職者等を新規雇用する町内企業に対する助成金の創設を考えています。

また、この取り組みに併せて、地域内の雇用の創出を図るため、引き続き、水力発電、バイオマス事業の推進を進める考えです。

その他、雇用の安定的確保のため、自然、神話、美肌温泉郷、たたら製鉄、仁多米などの地域資源を活かした産業や観光の振興についても、継続的かつ積極的に進めます。

象者や事業内容を充実させる考えです。

また、現在実施している「助け合い除雪」、「買い物支援」などの高齢者福祉施策はもとより、幼児園化の推進等様々な「子育て支援」、「障がい者支援」も継続します。

そのほか、奥出雲町にも馴染みの深いホッケー競技について、六年後の東京オリンピック開催に向け、各国チームの合宿誘致について、可能な限り話を進めたいと考えています。

『笑顔のまちづくり』

私は、笑顔で暮らせるまちづくりのため、人々が支えあうまちの生活基盤整備と人づくりを進めます。

具体的には、東京・大阪などの大都市に住んでいる、様々な経験や能力を持つ若者等を、「地域おこし協力隊」として地域社会の新たな担い手として迎え、積極的に活用し、町民と行政の協働を進め

財政運営の基本方針

そのほか、公共施設の耐震化や道路整備事業を継続的に実施し、安全で快適なまちづくりを進める考えです。

今から九年前、仁多・横田の両町が合併し、奥出雲町が誕生しました。

瞬く間の九年間でしたが、その間、岩田元町長の卓越した行政手腕により、ケーブルテレビ、地区コミュニティセンター、道路など、様々な生活環境整備が積極的に進められました。

そして、長引く景気低迷の中にあっても、井上前町長による積極的な投資事業の継続と財政健全化の取り組みが進められました。

その結果、「実質公債費比率」や「将来負担比率」の財政指標は徐々に改善されており、財政の弾力性を表すデータである「経常収支比率」は、

毎年、県内でも上位三団体に入る状況です。

しかしながら、町の収入の約四割を占め、国から交付される普通交付税が、来年度から漸次一本算定に移行します。平成三十二年度には、今年度と比べて五、六億円程度減ると見込まれており、財政指数のこれ以上の改善も困難な状況です。

また、病院や上下水道事業の運営費に対する負担などが増加傾向にあり、人口減少に伴う税収の減なども見込まれます。

そのほか、第三セクターの経営状況も厳しく、早急かつ適切な対応が求められています。

このように厳しい財政状況の中、町内の建設業者は事業所数、従業員数とも減少しており、地域経済と雇用を守る観点から、早急に対応する必要があり。

このため、私は、可能な限り道路整備などの公共投資事業を進めること、はもろろん、異業種参入の支援を強化する考えで

同時に、中期財政計画を絶えず見直し、引き続き、繰上げ償還を行うとともに、基金残高の確保に努め、財政健全化を着実に推進します。

更に、財政状況の透明化を推進するため、私の信用金庫勤務の経験と知識を活かし、町の会計について、貸借対照表、資金収支計算書などの財務諸表を作成する考えです。

そのほか、老朽化が進行しつつある公民館など各種の公共施設や道路・上下水道などのインフラについて、安全・安心の確保と、中長期的なコストの縮減・平準化を図る必要があります。「公共施設等総合管理計画」を策定することとしていきます。

限られた財源の中で、町民の皆様からの様々な要望にお応えしながら、財政の健全化を進めるといふことは、私一人の力では為しえないことです。どうか、町民の皆様、お一人おひとりのお力添えを賜りたいと思います。

井上町長退任式

八月二十二日、井上勝博町長の退任式が役場仁多庁舎で行われました。

井上町長は平成二十一年五月の就任以来、五年三カ月にわたり町政にご尽力いただき、「定住・子育て支援」「神話とたたら・伝統の振興」「防災・災害対策」などをはじめとし、町の発展に多大な貢献をされました。

井上町長は「五年三カ月の間、町長として仕事ができたことを嬉しく誇りに思う。退任後も皆さんと一緒にふるさとづくりに取り組みたい」と感謝の言葉を述べられました。その後、多くの町民や町議会議員、町職員からあたたかい拍手が送られる中、慣れ親しんだ庁舎を後にされました。



▲職員と握手を交わす井上町長